

成田善弘

精神療法家の本棚

私はこんな本に交わってきた

円熟の精神療法家はどのように本に、そして自分の心に向き合ってきたのか。自身の体験や交流した臨床家たちへの追想を交えながら綴る、〈私〉と〈本〉の半生記。

「これまで私は、草原の中にぼつんと立っている一本の木のような文章を書きたいと思っていた。その木は下を通る人たちに何かを要請することはない。黙って通り過ぎていってもなんらさしつかえない。それが少しずつ、木の下で憩う人がいてくれるとよいな、そしてそこでひととき語り合ってくれるとよいなと思うようになった」

どんな本を読み、どんな本を書き、どのように書き手と触れ合ってきたのか。長年にわたって精神療法の世界で活躍してきた著者が回想する、ありのままの〈私〉と〈本〉。読み方だけでなく、書評をする、編集する、翻訳する、書くという営みを、自身の体験や交流した臨床家たちへの追想を交えながら綴る。

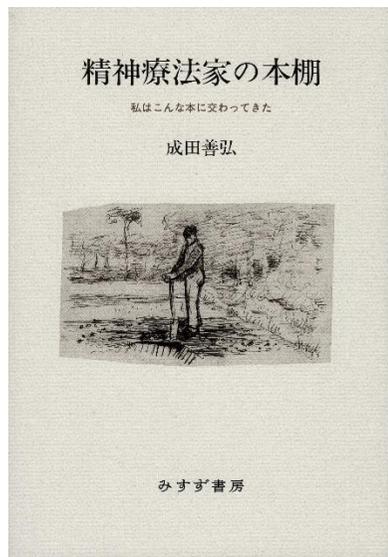
文字通り本と〈対話〉し、自身の心の動きをとらえ他人に伝える、心の専門家ならではの感性。本書は、日本の精神医学・臨床心理学史の一頁にして、精神療法家・成田善弘の半生記である。

■目次

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| まえがき | (二) 編者としての問題意識 |
| 第一章 書き手と自分自身に交わる読書 | (三) 記念論文集を作る |
| (一) 私は何を読んできたか | 第四章 翻訳して適切な言葉の使い方を学ぶ |
| (二) 本を読むとどういふよいことがあるか | (一) 翻訳するようになったきっかけ |
| (三) フロイトを読む | (二) 最初に訳した二冊 |
| (四) 小説を読む | (三) なぜ翻訳するのか |
| (五) エッセイを読む | (四) 日本語の特徴に気づく |
| (六) インタビューを読む | (五) 誤訳について |
| 第二章 書評、書き手の心の源泉に参入する | (六) 共訳者について |
| (一) こんな書評を書きたい | 第五章 自分の心が感じたことを確かめるために書く |
| (二) 私の書いた書評、著者をめぐる追憶 | (一) なぜ書いてきたか |
| 第三章 医学と心理学、そして学派間の対話の場を編集する | (二) 誰にむかって書くか |
| (一) 編集は創造である | (三) どう書くか |

■著者紹介

なりた・よしひろ 1941年生まれ。精神科医。臨床心理士。名古屋大学医学部卒。名古屋大学医学部精神医学教室助手、社会保険中京病院精神科部長、相山女学園大学人間関係学部教授、大阪市立大学大学院生活科学研究科教授、桜クリニック嘱託医などを経て、現在、成田心理療法研究室。著書『新訂増補 精神療法の第一歩』『精神療法家の仕事』ほか多数。訳書 マスターソン『青年期境界例の治療』ほか多数。



四六判 240頁 本体 3200円＋税
2014年4月22日発売

株式会社 みすず書房

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-32-21 TEL: 03 (3814) 0131 FAX: 03 (3818) 6435